

I. 著者紹介

ここで紹介する翻訳資料の著者について、手短かに紹介しておきたい。

1. リュック・ボルタンスキ (Luc Boltanski)

1940 年生まれ。ブルデューの弟子として 1970 年代にブルデューと *Actes de la Recherche en Sciences Sociales* の創刊に参加し、ブルデューとの共著で多くの論文を執筆している。その後、ブルデューと袂を分かった後、1984 年に Laurent Thévenot とともに、社会科学高等研究院 (EHESS) にて政治・倫理、社会学グループ GSPM を開設し、現在、同グループ研究部長を務める。著書には *Les Cadres*, *Miniuit* (1982)、*De la Justification* (Thévenot との共著)、*Gallimard* (1991)、*Le Nouvel Esprit du Capitalisme* (Eve Chiapello との共著)、*Gallimard* (1999) 等がある。とりわけ *Le Nouvel Esprit du Capitalisme* は、英語に翻訳されて以来、話題となり、邦訳が出版されている (『資本主義の精神』『思想』2005 ; ナカニシヤ出版 2007)。

2. フランシス・シャトーレイノ (Francis Chatauraynaud)

1960 年生まれ。現在、EHESS、プラグマティズム・レフレクシブ社会学グループ GSPR 研究部長を務める。リスクや科学技術をめぐる論争研究のための分析ソフト (PROSPERO) を開発した。翻訳本文「ナノテクノロジーと技術予言」で書かれているように、社会学者が収集した、原子力や GMO、ナノテクノロジー、鳥インフルエンザといった 30 以上の論争や討議のコーパスの分析を行っている。とりわけ原子力とアスベスト、BSE といった問題のコーパスを比較研究した D. Torny との共著、*Les Sombres Precurseurs* (1999) が著名であり、他に *La Faute Professionnelle* (1991)、C. Bessy との共著、*Experts et Faussaires* (1995) がある。

3. ジャン=ピエール・デュピュイ (Jean-Pierre Dupuy)

1941 年生まれ。Ecole Polytechnique の教授で、米国スタンフォード大学客員教授。哲学及び認知科学の分野で国際的著名な彼の著書の多くは、すでに邦訳、『秩序と無秩序』、『物の地獄』(P. デュムシエルと共著)、『犠牲と羨望』(いずれも法政大学出版局) 等が刊行されている。

4. フランソワーズ・ルル (Francoise Roure)

経済産業省所管 IT 審議会経済法務部会長であり、フランスにおけるナノテク研究開発政策の中心人物。